

標 題

ぶどうに続け！柿もアスパラガスもキックオフ！
 ～リース事業で初期投資が大きく軽減～

(ダイジェスト)

J Aしまね出雲地区本部では、園芸産地の再生とその担い手育成を図るため、昨年度、国庫補助事業を活用して、柿のリース団地、ぶどうとアスパラガスのリースハウスを整備しました。この度、それぞれのキックオフ大会が盛大に開催され、関係者一同が決意を新たにしました。

J Aしまね出雲地区本部においては、平成25年から3年間、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（国）を活用して、ぶどうのリースハウスを整備（34棟、3.3ha）し、15名（うち認定新規就農者3名）の方が入植されています。こうした取り組みがぶどう以外の園芸作物にも波及し、昨年度においては柿とアスパラガスでもリース方式による事業が導入され、担い手の育成と産地の再生に向けた動きが加速しています。

【平成28年度事業概要】

作物名	面積	入植者数（うち認定新規就農者）
柿	475a	3名（2名）
ぶどう	79a	8名（1名）
アスパラガス	60a	3名（1名）

4月12日に開催された柿のキックオフ大会には入植者3名をはじめ、関係者計17名が出席し、早期成園化や技術・経営感覚の醸成等について激励した後、入植者からは「5年目に単収1.0t～1.5tを目指す」と力強い決意表明がありました。

また、同月20日にはぶどう・アスパラガスの合同キックオフ大会があり、入植者11名を含め35名が出席し、入植者から「リース事業は初期投資が軽減され、大変助かる」「農業を盛り上げ、出雲が島根の農業を引っ張っていけるよう頑張りたい」との決意があり、関係者一同が今後の産地再生に向け、一丸となって取り組んでいくことを誓い合いました。

これまで取り組んでいるリース事業は農業者の初期投資を軽減するため、リース料の一部をJ Aと県が補填していることから、新規就農や規模拡大に取り組み易く、特に収穫が次年度以降になる永年作物栽培において大変魅力的な制度として関心が寄せられています。

こうしたことから、本年度においても引き続き、ぶどうで0.6ha、アスパラガスで0.3haのリースハウスが整備される予定となっており、正に島根の農業を引っ張っていく地域となっています。

農業普及部としましては、入植者への技術指導による早期成園化、部会組織への産地ビジョンづくりの働き掛けとそのビジョンの確実な実行による産地再生化に向け、関係機関と密に連携を図り、組織的、計画的に支援を行っていくことにしています。



柿リース団地



「ぶどう・アスパラガス」キックオフ大会